

福岡縣の戦後の経済十三半土半限後附録

昭和十六年八月四日

根拠
財團
臨時會福岡出張所

財團
協調會福岡出張所

福岡縣に於ける昭和十三年上半期労働争議概要

戦時体制の進展に伴ふ産業協力精神の強化は必然的に労働争議の激減を齎したのであるが一方物價騰貴は平和的産業交通其の他の従業員的生活に尠なからざる恐威を與へたのである。この物價騰貴を主因として發生したる實金値上要求は本年二月頃より漸次増加を示し一時成行を注目せられたのであるが、四月を最高として再び減少し六月中には一件の發生も見なかつたのである。

本期に於ける發生總件數は十九件に達したるも大半は紛議の程度に止まり二三罷業手段に出でたるものありたるが、半日乃至一日にて常態に復し尙組合干與の争議に於ても全く消極的にして見る可きものはなかつた。

而して全般的に緊期間の長かつた理由の主なる點は勞資双方各自重し最も合理的な解決を計る可く慎重な態度を取りたる結果にし